

# 令和2年度第1回結城市認知症施策推進協議会議事録

日 時：令和2年8月7日（金） 19時00分から20時00分

場 所：結城市役所2階 第2・3会議室

## 1 議 事

- (1) 令和元年度結城市認知症施策実績報告について
- (2) 令和元年度結城市認知症初期集中支援チーム実績報告について
- (3) 令和2年度結城市認知症施策実施計画・経過報告について
- (4) その他

## 3 出席委員（12名／13名）

三岳荘小松崎病院認知症疾患医療センター	大 塚 郁 恵
結城病院 内科	山 口 恵 子
結城病院 リハビリテーション部	川 口 淳 一
結城病院 看護部 手術・中材室	大 西 恵 子
城西病院 リハビリテーション部	森 洋 輔
城西病院 看護部 内科病棟	倉 持 裕 子
結城市地域密着型サービス事業所連絡会	足 海 弘 俊
茨城県介護支援専門員協会結城地区会	野 村 美 香
結城市社会福祉協議会	池 羽 修 一
結城市民生委員児童委員協議会	長 瀬 裕 一
結城警察署 生活安全課	福 田 稔 丸
認知症の人と家族の会 茨城県支部	牧 野 優 子

## 4 傍聴人

0人

## 5 事務局

保健福祉部	部長	本 多 武 司
介護保険課	課長	山 本 賢 司
長寿福祉課	課長	石 川 好 次
長寿福祉課長寿支援係	長寿支援係長	滝 澤 剛
地域包括支援センター	所長	稲 葉 龍 也
	係長	宇 都 木 由 紀 子
〃	主幹	小 川 直 子
〃	主幹	福 井 由 布 子
地域包括支援センター南分室	看護師	佐 藤 栄 子
〃	社会福祉士	木 立 雅 人
在宅介護相談センターたけだ	相談員	高 橋 史 創
在宅介護相談センターヒューマン・ハウス	相談員	三 宅 由 美

1. 開会
2. 委嘱状交付 ※机上交付
3. 市長挨拶
4. 自己紹介  
委員及び職員自己紹介
5. 委員長・副委員長の選出  
○委員長の選出  
事務局一任の声あり、事務局案として委員長に川口委員、副委員長に山口委員を推薦。  
委員の了承を得る
6. 委員長あいさつ  
川口委員長：コロナウイルスが蔓延しているなかで、昨年までのやりかたはできなくなっている。しかし、だからただ単に中止するのではなく、その事業の目的をもう一度考えて、本当に大切な部分は、形を変えて失わないように、委員の皆さんとアイデアを考えていきたいと思います。ご協力よろしくお願いします。
7. 議事  
<審議内容>  
議事（１）令和元年度結城市認知症施策実績報告について  
ア 事務局説明  
配布資料に基づき説明。  
  
イ 発言  
意見なし。  
  
議事（２）令和元年度結城市認知症初期集中支援チーム実績報告について  
ア 事務局説明  
配布資料に基づき説明。  
  
イ 発言  
川口委員長：認知症の相談件数が137件とあるが、若い方の認知症の相談件数は把握しているか。  
事務局：昨年度は、若年性認知症の方の相談は2件と把握している。  
川口委員長：若年性認知症の方は今後増えてくる。また、介護保険だけでは対応できないケースもあるので、どういった支援ができるのかは今後考えていかなければいけない。  
  
牧野委員：対応終結ケース①で『今後は必要時介入を行う』とあるが、これは地域包括支援センターの職員が行うのか。チームとしての対応が終わっても包括支援センターの職員が対応するという認識でよいか。  
事務局：地域包括支援センターの職員が、対応終了後も、適宜モニタリングを行い、状況に合わせて介入する。必要であれば再度、初期集中支援にあげることも視野にいれ

ている。

牧野委員：対応終結ケース②で、『若年性認知症により BPSD が顕著である』とあるが、BPSD の症状を差し支えない範囲で教えてもらいたい。

事務局：ケース記録では被害妄想や易怒性がみられていたとの記載がある。

### 議事（3）令和2年度結城市認知症施策実施計画・経過報告について

#### ア 事務局説明

資料に基づき説明。

#### イ 発言

川口委員長：認知症サポーターステップアップ講座については、養成数もかなりいると思うので、認知症カフェ等に協力者として活動できるような仕組みを作って欲しい。サポーター養成講座がリモートでの開催が不可のため、事業の展開は難しいと考える。

森委員：子どもサポーターが今年度は中止ということだが、今年度対象の5年生に講座の資料を配布する等のフォローをしてもいいのではないか。

事務局：今年度、5年生には開催できないが、次年度5、6年生をまとめて実施する予定です。また、小学校で行う養成講座は寸劇とパワーポイントを使用している。その際配布する小学生向けのリーフレットが活用できる可能性がある。

川口委員長：ゆうき図書館で認知症図書を紹介をするということですが、おすすめの本を教えてください。

山口委員：新聞で紹介されていた「おばあちゃん、私を忘れてもいいよ」という児童書が題名に惹かれた。「私を忘れてもいいよ」ということが「認知症を受け入れる」ことに繋がり、病気を理解することや受け入れることは認知症の方と接するにはとても大事なことなので、小学生にぜひ読んでいただきたい。

福田委員：徘徊高齢者の交通事故被害が問題になっている。初期集中支援の初回訪問までの平均日数が11日とありましたが、日付がかかっているという印象がある。早く対応したからといってすぐに解決できる問題ではないと思うが、早めのかかわりがあると、安心できると思う。

事務局：ケースによってはなかなか本人に会えなかったり、家族がいるタイミングを見計らっていたりと、初回訪問の対応にバラツキがある。なるべく早期に関わりがもてるようにしていく。

池羽委員：認知症ケアパスについて、成年後見制度や社会福祉協議会で行っている日常生活自立支援事業等の判断能力が低下されている方の支援を掲載するのは有効だと思う。

大塚委員：認知症疾患医療センターを受診された方や認知症と初めて診断された方にパンフレットを渡しているが、ケアパスがコンパクトにまとまっていると伝えやすい。また、一番最後のページに相談場所が書かれていると使いやすいと思う。

大西委員：認知症カフェに実際に参加してみて、歌や子どもの影響力の大きさを感じた。  
新型コロナウイルスの影響で開催はかなり難しい状況だと思うが、継続できる方法があるといい。

長瀬委員：「おかえりマーク」について、どういうものなのか実際に見たことがなくてわからない。民生委員の中でも知らない人がいると思う。民生委員は高齢者実態調査等で訪問することも多く、ぜひ周知していただけるとありがたい。

事務局：ぜひ定例会等を通じて周知させていただきたい。

\_\_\_\_\_ 終了 20時00分 \_\_\_\_\_